

## 第5分科会②

協議題 キャリアステージに応じた資質・能力や「チーム学校」への参画意識の向上を図る研修の推進

研究テーマ 「教職員一人一人の主体的な学びを支えるOJTを大切にした学校組織の改善を通して」

提案者 熊本県天草市立御所浦小学校 校長 木場 正敏

### 1 はじめに

本校がある御所浦町は熊本県天草諸島の南東部に位置し、周りを八代海に囲まれ3つの有人島を中心に大小18の島々から成り立っている。島の海岸線はたくさんの入り江が存在し、波静かで魚類養殖に適した地形をしている。人口は約2400人で、そのうち約400人が水産業にたずさわっている。本校は、平成28年度までに5つの小学校が合併して誕生した学校である。通常学級が6学級、特別支援学級が1学級ある。

校内研修のテーマを昨年度までは「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の創造」として、国語科を中心に授業づくりの研究を行ってきた。令和5年度は教科を他教科にも広げ、「学び合い」をキーワードとした授業づくりを研修の中心とした授業改善を推進している。また、地域との密接な連携と小中連携の2つの連携を大切に学校運営を進めている。

### 2 主題設定の理由

本校の教職員構成(令和4年5月1日当時)は、県費教職員数15人のうち、再配者を中心に教職6年未満が6人(担任7人中6人)という構成であり、「熊本県教職員等の資質向上に関する指標」(管理職を除く)に当てはめると以下の表のような非常に経験年数が少ない集団である。

【R4年度本校のキャリアステージ別の構成表】

期	基礎期	向上期	充実期	発展期	円熟期
経験年数	1~5	6~10	11~16	17~25	26~
人	3	4	1	0	0

また、離島で自己研鑽のための勉強会などにも参加しにくい環境を考えると、OJTでの学びの充実喫緊の課題である。併せて、「令和の日本型学校教育を担う新たな教師の学びの姿の実現に向けて」が中央教育審議会から答申され、「主体的な教師の学び」「個別最適な教師の学び」「協働的な教師の学び」といった「新たな教師の学びの姿」が示された。教職員一人一人の「よさ」を主体的に発揮できる環境の整備は校長の役割だと考えている。

### 3 研究の視点

文部科学省HPによれば、「チームとしての学校」

を実現させるための視点として以下の項目が上げられている。

○専門性に基づくチーム体制の構築

○学校のマネジメント機能の強化

○教職員一人一人が力を発揮できる環境の整備

そこで、研究主題を設定する上で「校内体制の整備」「授業力の向上」「業務改善」「人材育成」をキーワードとして、研究テーマ「教職員一人一人の主体的な学びを支えるOJTを大切にした学校組織の改善を通して」に迫ることとした。

### 4 研究の実際

#### (1) 校内体制の整備

##### ① 主体的な教職員を育てる学校組織運営の工夫

本校では、校務分掌AB制とプロジェクト制を組み合わせた学校運営組織を取り入れている。小規模校でもあるので、一人で複数の校務分掌を担うことになる。例えば令和4年度の3年生担任であれば、以下のような業務を行った。

安全・防災主任、体育主任B、音楽主任、生徒指導B、読書活動A、教科書担当A

また、校務分掌AB制とは、例えば体育部であると以下の表のように、校務を分担し、相談しながら業務を推進する体制である。

【体育部AB 役割分担表】

体育主任A	体育主任B
運動会、陸上関係 プール関係、なわとび、スポーツテスト、小体連関係	持久走大会 PTA体育委員関係
全校体育、教科体育帯時間活動	
主に上期(主)	主に下期(主)

【資料1】は校務AB制とプロジェクト制の教職員向け説明資料である。このシステムで重視しているのは以下の内容である。

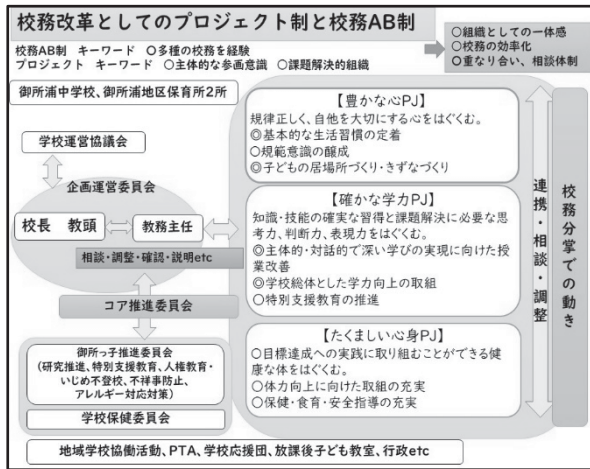
○組織として校長が示す学校目標や重点項目を達成しようとする組織

○様々な校務分掌種を経験することで、将来のキャリアアップにつながる組織

○校務分掌での取組、プロジェクトとしての

取組の中で、主体的に学校経営に参画できる意識が育つ組織

- 若手の先生方の学ぶ機会（相談体制の充実）を保障する組織
- 効率的に働くことを意識した組織



【資料1 校務改革としてのプロジェクト制と校務AB制】

また、各学期に教職員による教育評価及び保護者による学校評価の結果を受けて、3つのプロジェクトに分かれ、次学期の活動の重点項目について話し合う機会を設けた。それぞれのリーダーを中心にプロジェクトが主体的に児童の様子やこれまでの進捗状況などを考慮しながら、改善の方策を提案するようにしている。その後、各プロジェクトから、【資料2】のような提案が各学期に出され、取組の共有化を図った。

御所小小向上プロジェクト2		PDCAを!
<b>現状</b>	3学期に向けて	
「進歩が早い」の声が多い。	<b>確かな実現へ向け、準備をお願いします。</b>	
「進歩が早い」の声が少ない。		
児童の意欲が低い。	<b>確かな実現へ向け、準備をお願いします。</b>	
「進歩が早い」の声が多い。		
児童の意欲が低い。		
「進歩が早い」の声が多い。		
児童の意欲が低い。		
「進歩が早い」の声が多い。		
児童の意欲が低い。		

【資料2 御所小小向上プロジェクト2】

②教頭・教務部及び各主任との連携強化

定期的な推進委員会での協議も大切にしていくが、課題が見つかった段階で、関係主任と協議し、情報を整理して、早く対応する方が本校には合っていると考え、校長・教頭・教務主任及び該当課題の主任（部）を交えた「コア推進委員会」の動きを大切にしている。その場で、担当としての思いの聞き取りの他に情報交換を行い、校長としての考えなども

明確に伝えることができ、担当の視点の広がりが、成長も感じることができた。

(2) 授業力の向上

①一人2回の公開授業の実施と管理職によるミニ参観の実施

本校は、離島ということもあり、研究会や教科等のサークルでの勉強会などに参加しにくい現状がある。校内の指導体制の充実及び天草市等の研修を積極的に活用しながら、一人一人の授業力の向上を図った。

熊本県教育委員会が示した「熊本の学びアクションプロジェクト」にもあるように、管理職が計画的に授業観察と指導・助言を行う場が重要だと考えている。日常指導の時間と校内研修の大研等を活用し、一人2回以上の学習構想案を作成しての授業研究・公開授業を実施し、一人一人の授業力の向上を図った。

また、管理職が声かけしたり、教員が主体的に参観を希望したりするミニ参観も含め授業を参観した後に、授業参観シート(A4表裏1枚)【資料3】を校長・教頭それぞれ作成し、全教職員に配付し、校内研修の場でポイントを解説する機会を設けた。



【資料3 授業参観シート】

②授業力向上のためのICT活用推進

年度当初の目標として、「学校情報化優良校をR4年内に取得し、環境整備・スキルアップを行うこと」と設定した。教頭・ICT推進担当と情報の共有を行う中で児童のICTスキルに個人差が大きい学年もあった。上期中に学年で身に付けておきたいスキルを、天草市教育委員会作成のスキル系統表を参考にしながら、本校で活用が多い、「Google work space」などのソフトやプログラミング学習で活用するソフトの見直しを図りながら、【資料4】のようなスキル系統表を作成し、全学年で活用し、目標に迫るための

効果的な ICT 活用を推進することができた。

項目	スキル内容	1年	2年	3年	4年	5年	6年
基本的な操作	電源を入れる(起動する)、電源を切る(終了する)ことができる。	○	→	→	→	→	→
	個人情報(IDやパスワード)を適切に管理する。(IDやパスワードを入力)ことができる。	○	→	→	→	→	→
	キーボードの主要なキー(Enter, Space, Backspace)の位置と操作内容がわかる。	○	→	→	→	→	→
	タッチパッド/タッチパネルの基本操作がわかる。(クリック、ダブルクリック、ドラッグドロップ、コピーペースト)	○	→	→	→	→	→
	学習活動で用いるアプリケーションを自分で選択して起動・終了できる。		○	→	→	→	→
文字入力	ローマ字入力ができる。			○	→	→	→
	※文字入力(かな)ノリ			○	→	→	→
	Formsなどのアンケートに回答することができる。	○	→	→	→	→	→
	半角/全角、大文字/小文字の切り替えを行うことができる。			○	→	→	→
	文節ごとに文字変換する。				○	→	→
文字入力	グラフィックソフトで絵や図を描くことができる。	○	→	→	→	→	→
	Word、ドキュメントなどのワープロソフトを使って、文章を書くことができる。			○	→	→	→
	ワープロソフトを使って、文字の大きさや色などをカスタマイズできる。			○	→	→	→
				○	→	→	→
				○	→	→	→

【資料4 御所浦スキル系統表】

また、教職員が ICT 支援員とその活用について主体的に学ぶ機会を自分たちで設定する場面も増えてきた。



(3) 業務改善

①働き方改革のビジョンの共有化

新年度スタートにあたり、今年度進めていきたい校務改善のビジョン【資料5】を教頭と共有化し、教職員に示した。その中で教職員の主体的な参画ができる人材育成体制づくりとワークライフバランスを意識した働き方改革を進めることとした。また、進行中・検討中の事案については、短期(上期中)、中期(今年度中)、中長期(R5年度末まで)と分け、業務改善を進めた。

組織の見直し 働き方改革のための環境整備	勤務時間の適切な管理 教職員の意識改革	業務の改善 ①短期(上期中) ②中期(今年度中) ③中長期(R5末まで)
<ul style="list-style-type: none"> <li>○校務分掌AB制による校務分掌の負担の均一化</li> <li>○校務のプロジェクト化による参画意識の深化</li> <li>○地域学校協働活動推進員の効果的活用</li> <li>○校務支援システム等の効果的な活用による仕事量の軽減</li> <li>○理科専科による毛筆指導実施による担任の事務時間の確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日課の見直しによる放課後時間の確保</li> <li>○教頭による勤務時間適正な管理 昨年度の超過勤務平均 年平均 3.7、5時間 R4年4月 4.6時間 4.5時間以上 9人 【目標値】 昨年度月×0.9時間 ○教職員のタイムマネジメント、ライフワークバランス意識の醸成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日報の活用による共通理解の時間の確保と省力化</li> <li>○学校行事の更なる省力化、精査</li> <li>○一人一台の教師用タブレット端末を使った会議資料等の一部ペーパーレス化②</li> <li>○児童・保護者・教職員等へのアンケートの電子集計化①</li> <li>○進歩のデジタル化③</li> <li>○適正な評価及び学力の充実のための通知表の年2回化④</li> <li>●HPの利用などによる学級通信の省力化③</li> </ul>

○風通しの良い職員室(職歴や年齢に関係なく相談しあえる職員室)づくり  
○ライフワークバランスを考慮した働き方  
○子どもと向き合う、関わる時間を確保

【資料5 校務改革についてのビジョン】

その中で、面談やコア推進委員会の折に、教職員から改善したいことを聞き取り、組織として改善意識の向上を図った。【資料6】は、教職員からの意見を整理して示したものである。

業務改善のアイデア・要望	回答	NO.1
○会議資料などのペーパーレス化はできない?	職員会議はペーパーレス化を図っていきう方向で教務部、情報担当と今後協議していきます。研修のほうも合わせて記録・保管用、市費の先生方は紙媒体で印刷、Teamsで配布、今後より使いやすくしていくためにTeamsも使いやすくするようにリニューアルが必要かも。	
○通知表作成時期の事務整理期間など全学年一斉にかたまった時間とれない?	教務部と現在調整中。一斉に前もって事務整理の時間を確保、保護者にもご理解いただく方向で考えています。	
○年度当初の教育カレンダーの作り方が難しかった。	教務部が中心となって説明で調整中、4月当初に今年度の反省を生かして担任で一斉に説明、作成の時間を確保の予定	
○タブレットは教室管理にできない?	教室管理のOKは市教委にいただいているので、今後固定の手はずを進めていく。春休み期間中に移設予定。	
○学級通信は2週間に1回発行にできないかなあ。校長先生のHPが充実しているの。	PTA総会で保護者に対して話をします。その後A4版で作成。通信欄を2週間に1回、時間割は毎週進めていく予定。	
○教室タブレット(surface)にスズキ校務が入っていると評価の入り方がすぐできるのでありがたい!	市教委と協議、セキュリティの問題及びSurfaceに接続が合うのむずかしい。現在各教室にルーターの配備を依頼中。OKをいただいている。それにもない、校務ノートPCを早い段階で教室で使用できるようにする方向で進んでいる。セキュリティ面も含めて対策・対応	

【資料6 校務改革についての職員の声】

(4) 人材育成

①業績評価個人目標の効果的活用

人事評価を人材育成の場として、期首面談・期末面談の時期のみ活用するのではなく、資質向上のために活用していきたいと考えている。そのため、毎月の週案提出時に、自己評価【資料7】して、それを受けて校長・教頭がコメントを書き、教職員へ返すようにしている。

項目	具体的実施事項	取組状況	進捗状況	評価
業務改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分自身の成長のために、主体的に業務改善に取り組むこととする。</li> <li>業務改善の推進に主体的に取り組むこととする。</li> <li>業務改善の推進に主体的に取り組むこととする。</li> </ul>	b	b	b
人材育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>業務改善の推進に主体的に取り組むこととする。</li> <li>業務改善の推進に主体的に取り組むこととする。</li> <li>業務改善の推進に主体的に取り組むこととする。</li> </ul>	b	b	b
校務改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>業務改善の推進に主体的に取り組むこととする。</li> <li>業務改善の推進に主体的に取り組むこととする。</li> <li>業務改善の推進に主体的に取り組むこととする。</li> </ul>	b	b	b
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>業務改善の推進に主体的に取り組むこととする。</li> <li>業務改善の推進に主体的に取り組むこととする。</li> <li>業務改善の推進に主体的に取り組むこととする。</li> </ul>	b	b	b

【資料7 月々の業績自己評価表】

授業を参観する際や校務分掌での取組を推進していく際にも、目標の項目を達成するための進捗状況なども含めて、参観や相談ができ、面談などでも学級経営や授業の様子もよく把握できた。また、校長、教頭が同じシートでコメントを記入して蓄積していくので、気になったことなどがあつたら、管理職間の情報の共有や指導・助言の際の打合せなどにも効果的であった。

